

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し社会に貢献する生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	------------------------	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価													
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント										
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ											
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	○基礎学力の定着とアダプティブ(個別最適)な学びの充実 ○主体的な学びの創造と授業改善の推進	○基礎学力の定着	○標準学力調査	全国平均以上70%以上	実施できていない66.9%	91.0%	B	・標準学力調査が未実施のため、客観的データの比較はできていない。 ・毎日の家庭学習については63.7%で、前年度の62.5からは1.2%上昇したが、十分ではない。 ・生徒の授業満足度については、89.7%で、前年度の88.4%から1.3%上昇したが、目標には達していない。	・毎日の家庭学習については、1・2学年で6月と比較すると60%程度と10%程度下降している。教科担当と担任や学年との連携を進め、習慣化が定着できるようにしていく。 ・生徒の授業の満足度については、3学年で92%であったが、1学年が89.3%、2学年が87.7%であり、授業の工夫改善や個別学習を引き続き丁寧に指導していく。 ・前述の取組と1月に実施した実力テストの結果の分析を通して、基礎学力の定着に向けての指導をする。 ・年間計画に沿って、研究授業を行い、授業改善を図る。	○			先の見えないコロナ禍の中、この影響も大きいとは思いますが、地道に取り組んでいると思う。数値的に結果の出していない項目もあるが、全体的に数値化できない学校の頑張りや生徒の様子から感じた。										
			○家庭学習の習慣化	○毎日の家庭学習	90%以上	90.7%	89.7%								99.7%	○思考力・判断力・表現力の育成	○わかりやすく説明や発表している	70%以上	72.0%	69.5%	99.3%	○研究授業を1人年1回以上(1単元開発)	○研究授業は計画通りに進め、1月20日までに全員が実施した。	
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	○積極的な生徒指導の推進 ○道徳教育の充実 ○異年齢集団での協働活動の推進	○生活四訓の徹底	○自分からあいさつ	80%以上	71.1%	73%	91.3%	D	・中間報告から2%上昇している。挨拶について登下校時に生徒主体の挨拶運動をすることで意識は少しずつ高まっている。 ・暴力行為のほとんどが1年生である。特別な支援が必要な生徒が生起させているのが半分以上である。 ・不登校に関して、今年度新たな不登校は1名。各担任の取組により、欠席日数が30日以上の子供も昨年より改善されているケースもある。	・あいさつ以外の他の項目は高い数値である。挨拶については、生徒主体の挨拶運動の充実を図るなど具体的取組を考えていく。 ・特別な支援が必要な生徒への継続的な指導を続けていく。全体でも暴力、いじめに対する指導を定期的に行っていく。 ・欠席がちな生徒に対し家庭訪問と教職員間の情報共有を行い、保護者・SCや関係機関と連携しながら取り組んでいく。引き続きピアサポートによる集団作りを進めていく。 ・道徳の研修実施が2月になってしまったため、早い時期に実施し、教員間の共通認識をもつ必要がある。	○			授業参観の際に、若干1年生に落ち着きのなさを感じた。また、暴力行為が1年生で生起しているとのことであったが、ほとんどが2学期のものであり、現在の様子を見る限り、大きく成長しているものと考えられる。引き続き、日々の先生方の細かな指導をお願いしたい。									
			○デイリーの取組やいじめアンケートの実施	○「いじめ」「暴力行為」の件数	0件	暴力5件 いじめ1件	暴力9件 いじめ1件	0%								0%	○協働的な学び合いの場を仕組み議論する道徳の授業改善	○道徳の授業満足度	90%以上	86.2%	88.4%	98.2%	B	・目標値には至らなかったが中間報告から2.2%上昇した。また、「道徳の時間の勉強はためになると思う」と感じている生徒は92.5%であった。 ・全学年において担任以外の教員による授業を実施し、様々な大人の考えに触れる機会をもつことができた。
			○教育相談の充実(ハートルームの経営)	○不登校の人数	15人以下	10人	15人	0%								○生徒会活動や部活動の活性化	○自己肯定感	80%以上	79.3%	79.6%	99.5%	B		
			○部活動満足度		90%以上	92.4%	91.7%	101.9%																
信頼される学校	郷土に貢献できる生徒の育成	○地域貢献活動の推進 ○業務改善の推進	○地域と連携した防災学習の推進	○社会や地域への貢献	90%以上	81.3%	81.1%	90.1%	B	・81.1%の生徒が「社会や地域の役に立っている」と感じている。 ・92.6%の生徒が、「ボランティア活動に参加して良かった」と感じている。	・地域の防災士さん呼び、防災学習を行い、地域の活動に視点を向ける事が出来た。 ・新型コロナウイルスの影響により、地域のボランティアに積極的に参加できなかったが、今後ボランティアの申し出があれば、引き続き継続して声掛けを行っていく。 ・勤務時間外の在籍時間を減らすという意識が、学校全体として大変高まっており、引き続き、計画的、組織的に業務改善の取組を進め、今後は更なる在籍時間の減少を目指す。	○			先生方にとっても身体が一番であるため、コロナ対応等で忙しいとは思いますが、業務改善の取組については、引き続き、改善されると良いと考える。									
			○地域行事やボランティア活動への参加	○ボランティア活動参加満足度	90%以上	90%以上	92.6%	102.9%																
					○1人1業務改善の取組	○業務改善の意識調査	90%以上	88.5%	96.3%	107%	A	・「少しでも早く帰れるように業務改善を進めている」と答えた教職員は96.3%で、ほぼ全職員が意識して業務改善に取り組んだ。 ・各月において、勤務時間外の在籍時間が60時間を超えた職員は、10月合計でのべ250人中72名であった。		○										
		○週に1日の定時退校日の設定	○超過勤務月60時間以内	70%以上	73.1%	71.2%	101.7%																	

[j: 自己評価 評価]

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

[l: 学校関係者評価 評価]

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。